

## 京都ジョブパーク構想検討資料(委員ヒアリング等意見)

### <何が求められているか>

#### 1 ジョブパークの背景に関する考察

##### 1-1 考慮すべき社会状況の変化

- 1) 雇用失業情勢の変化(新規学卒者は明らかに買い手 売り手市場に移行)
- 2) フリーターの長期化問題(就職氷河期の後遺症、30歳を過ぎると極めて就職困難に)
- 3) ニートの問題(引きこもっている人へのアプローチ)
- 4) 2007年問題(中高年齢者の大量離職)
- 5) 女性の再就職等(M字カーブは改善されていないことが判明)
- 6) 障害者雇用(福祉就労 一般就労の政策大転換)
- 7) 外国人労働者(学生のまち京都では留学生の就職先という問題)
- 8) 働き方の変化(特に4)や5)の関係で、多様な働き方が必要)
- 9) 中小企業の人材確保対策(大企業の採用が活発化し、中小企業に影響)
- 10) 施策・事業の競合(厳しい雇用情勢のもと、様々な機関で就職支援等の類似施策が増加)

##### 1-2 ジョブパーク(京都府が行う就業支援)に求めたい機能(アクションプラン委員全体会議・個別ヒアリング等で収集中)

- 1) 求人側からも求職側からも、どういところへ行けば求める情報(サービス)が得られるかというアテンダント(案内)機能  
(「どこに何がある」に留まらず、各研修・訓練等事業メニューの案内、事業実施機関への紹介など「つなぐ」機能まで)
- 2) 狭義のフルタイム雇用の紹介だけでなく、様々な働き方、社会貢献的活動も含めた情報提供やアドバイス

- 3) 就職までで終わるのでなく、その後の定着まで支援する機能
- 4) ニート、ひきこもりを引っ張り出す
- 5) リストラ等による失業者(サラリーマンキャリアはあるが即戦力技能がない)と定年退職する団塊世代とは焦点が違うが、中高年を対象とすると、前者と、後者の中で前者に類似の層がジョブパークに集まる。この層の引き上げが行政の役割かも知れないが、有効な対策に欠ける。

#### 1 - 3 若年者と中高年や女性の窓口を一緒にすることの得失(賛否両論あり)

- 1) ジョブカフェは若者に特化することによって成功したが、中高年も一緒にすることにより、若者が行きたいところでなくなってしまい、ジョブカフェの良かった面を消してしまう可能性もある。双方に活用できるノウハウは異なり、中高年にワンストップサービスは必要ない。
- 2) 若者だけでまとまった方がよい面もあるが、他の年齢層とも自然に交流できる場づくりもあっていい。いろいろな人が入るのは効果がある。

#### 1 - 4 その他アイデア

- 1) 頭でなく汗をかくことやボランティアが体験できる方がよい。植物園の側へ移転してはどうか
- 2) 人が集まる場である限り、どんな刺激を送れるか。ジョブカフェ & ラブカフェになれば、少子化対策にもなる。
- 3) カウンセラーの魅力で人を集める。人生経験があり、自分をきちんと出せる人であれば、オヤジ等でも名物的になる。
- 4) 雇用されて働くということの厳しさを教える(甘く考えているので早期離職するのではないか)